

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶

プライマースーパーE

グラナダF 20kg/缶

塗料用シンナー

使用器具

計量 秤

基層塗り リシガン又はコテ

模様塗り リシガン又はコテ

模様付け クリークローラー (リブ幅8mm)
+ 押えローラー

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料		調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
						工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE		15kg 無希釈	0.1～0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF		20kg	0.8～1.0	1	－	6以上	リシガン 口径：4～6mm 吹圧：0.5～0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り	1～2kg					
		コテ塗り	0～0.5kg					
模様塗り	グラナダF		20kg	1.6～1.8	1	－		リシガン 口径：6～8mm 吹圧：0.4～0.6MPa コテ
	清水		0～0.5kg					
パターン 付け	配り塗り後、クリークローラーで横方向に起こし、更に、塗シンを付けた押えローラーで、意匠形成する。継ぎをずらしてムラに見えない様にする。						追っかけ 模様付け	クリークローラー ＋押えローラー
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。					－	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					－	24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

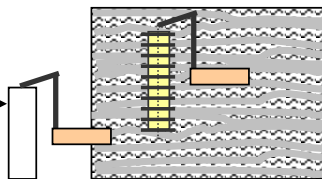
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ② 主材は定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を凹凸吹き放しで吹き付ける。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、模様塗り後一旦クリークローラーで材料を起こし、さらに追っかけで、塗シンを付けた押えローラーで押えて意匠を形成する。
- ② パターンは、特に塗布量やクリークローラーの転がし重ね回数やランダムさなどにより仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ確認を行う。
- ③ 表面皮張りが早い場合、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ クリークローラーは、横方向にほぼ平行にラインを起こし、且つ継ぎはランダムな位置で丁寧に行う。
- ⑥ クリークローラーは、時々水で洗い、水切して繰り返し使用する。
- ⑦ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。